

東京慈恵会医科大学 大学院博士課程「がん治療医療人養成コース」のご案内

東京慈恵会医科大学大学院医学研究科では、平成 25 年度より社会人大学院生を対象とした博士課程「がん治療医療人養成コース」（以下、がん医療人コースという）を新設いたしました。以下に、がん医療人コースの設立の経緯と目的、入学のための要件、入学後 4 年間の教育概要、博士号取得などについて紹介いたします。

1. がん医療人コースの設立の経緯と目的

現在、日本の死亡原因の 1/3 はがんであり、3 年後の平成 27 年には 2 人に 1 人はがんで死亡することとなるような研究報告もあります。このような日本の国民病に関して、平成 18 年には、がん対策基本法が国会で成立、その後文部科学省より、がん医療人の養成を図ることを目的とした「がんプロフェッショナル養成プラン（がんプロ）」が提案され、このプランに沿って日本の主な医学部の大学院研究科が様々な取組で参加しています。

本学においては平成 25 年度より、大学院研究科博士課程にがん専門医療人養成のための「がん治療医療人養成コース」を設置することとなりました。このコースは大学院における教育の活性化を図る目的もあり、他大学と連携し、がん臨床分野においてより高度ながん医療を実践できる国際的な視野をもったがん専門医を育成し、将来卒業生が本学だけでなく広く国内外において、最先端がん診療のリーダーシップを担うことを期待しています。

本コースの体系的・段階的養成カリキュラムにより、最良のがん治療効果と QOL を担保した「切れ目のない医療」を実現できるがん専門医療人を養成します。また、他大学院と連携し、高度がん医療人や臨床分野のがん研究者の養成を推進していきます。

診療科横断的なカリキュラムを履修することにより、患者中心のがん医療を実践し、がん治療に関する認定医、専門医などの取得に必要な基本的知識が確保できるとともに、専門カリキュラムで実習と、院生のニーズに適した臨床研究により学位取得をサポートし、より高度ながん医療を実践できる国際的な視野をもったがん専門医を養成します。

2. がん医療人コース

研究科名	大学院医学研究科 博士課程
専攻、授業科目名、授業細目名	医学系、器官病態・治療学、悪性腫瘍治療学
コース名	がん治療医療人養成コース
コース責任者	大学院研究科 悪性腫瘍治療学、腫瘍センター長 教授 落合 和徳
募集人員	若干名
入学のための要件	初期臨床研修 2 年間、後期臨床研修 3 年間の修了を基本とする。
養成する専門分野	臨床腫瘍学、腫瘍外科学、放射線腫瘍学、緩和医療学などより選択
修業年限	4 年
授与する学位	博士（医学）

3. 特徴

- 1) がんに関する各専門分野の学会認定資格取得可能なプログラム構成を有する
- 2) がんに関する学位論文を作成
- 3) 地域がん診療連携拠点病院としての教育活動と連携
- 4) 診療科横断型のカリキュラム構成としてがん専門医療人を養成
- 5) 大学連携によるがん多職種チーム医療教育を実践
- 6) 本プログラムはがん専門医療人研修のために科目履修も含む。

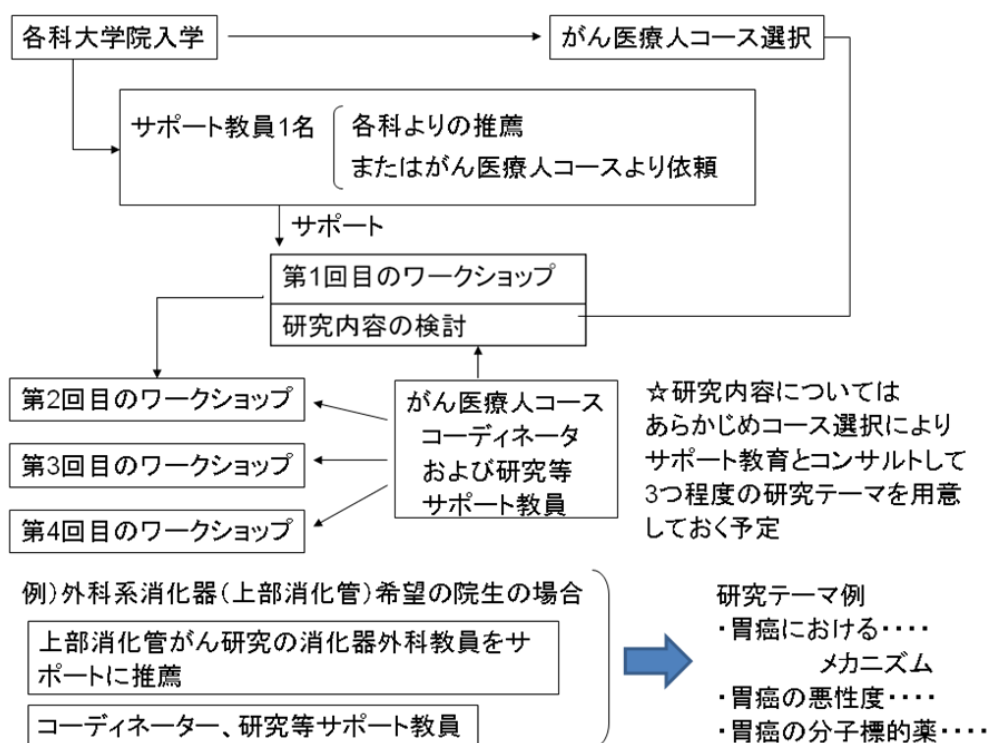
4. がん治療医療人養成コースの所属

がん治療医療人養成コース（以下、がん医療人コースという）の大学院生は、受け入れの授業細目科から授業細目科 悪性腫瘍治療学「がん治療医療人養成コース」に再派遣されます。

5. 研究内容について

悪性腫瘍の制圧は、現在そして将来においても医学界に課せられた大きな問題の一つです。本大学も、悪性腫瘍については、従来の診療科の枠を超え、また悪性腫瘍の基礎研究部門である DNA 研究所とも緊密な連携を取りながら、大学の総力をあげて診療を提供する横断的活動をめざしています。そのためには基礎となる人員育成が必須であり、がん医療人コースも臨床だけでなく、研究においても、院生の専門分野における先進的ながんの研究ができるようにサポート体制を構築します。また臨床試験に関する研究を積極的に取りいれるとともに、基礎研究とトランスレーショナルリサーチの推進も視野に入れた取組を行います。がん医療人コースにおける大学院生は、良性腫瘍および悪性腫瘍の病態、発生および進展に関する研究、遺伝子診断、手術療法、抗癌化学療法、抗腫瘍薬物療法（ホルモン療法、分子標的療法）、放射線療法、免疫療法、遺伝子治療、緩和医療などに関する基礎から臨床までバラエティーに富んだ研究テーマを選択することができます。

本コースの研究サポート体制を下図に示します。がん医療人コースの院生は、各科からのサポート教員、研究サポート教員、本コースコーディネータによる研究サポートを受け、テーマの選定およびトランスレーショナルリサーチ等の研究を行います。



博士課程がん治療医療人養成コースの研究サポート体制

6. 入学後4年間の教育概要と博士号取得

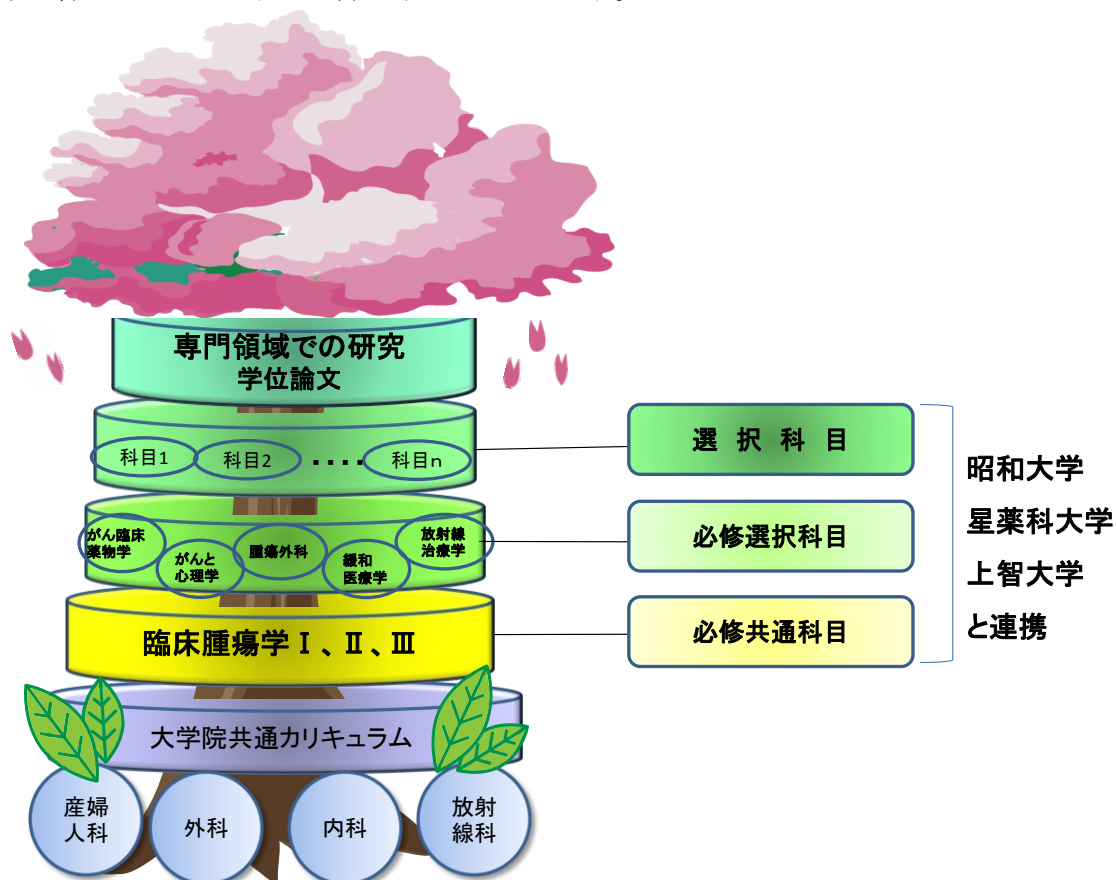
本コースは、次の4つのカリキュラムを必要とし、取得単位は合計30単位以上です。

- ② 大学院共通カリキュラム 8単位
- ② がん医療人コース必修共通科目群 8単位
- ③ がん医療人コース必修選択科目群 3単位以上
- ④ がん医療人コース選択科目群と⑤論文作成で学位所得合わせて 11単位以上

本コースを選択した大学院生は、初年度より大学院共通カリキュラムを受講するとともに、がん診療のための基礎的知識や科横断的ながん治療、緩和医療などに関する講義やeLearning（厚生労働省が推奨している団体の提供しているものなども含む）として臨床腫瘍学I,II,III、演習、ワークショップなどを受講します。2, 3年次には、選択科目として、各種のがんに対する化学療法、放射線療法、がんの外科治療、緩和医療などへ実地医療経験も選択できます。また、研究のサポートとして、一年次よりのワークショップに参加してがん臨床研究を主としたテーマの選択と実施、その後2年次、3年次にも研究の進行状況の発表および研究サポートのためにワークショップを実施し、就学期間中に、がんに関連する研究（臨床研究が望ましい）を行い、英文論文作成にて、合計30単位以上の要件を満たし、本学の審査を通過した者には博士号を授与するように指導します。

本コースの科目としては、臨床腫瘍学I,II,III 及び、緩和医療学などを受講し、選択により、内科系は、日本臨床腫瘍学会の認定がん薬物療法専門医および各種関連領域の専門医を取得します。外科系は、がん治療認定医および各種関連領域の専門医を取得します。その他、各種関連領域のがん、緩和医療認定または専門医を取得します。

また就学期間中に、がんに関連する研究（臨床研究が望ましい）を行い、論文作成にて、要件を満たし、本学の審査を通過した者には博士号が授与されます。



がん治療高度医療人養成プログラムの科目履修概念図

1 年次

- ・オリエンテーションと研究サポートの2日間のワークショップ（前期）
- ・大学院共通プログラムによる講義（前期）
- ・研究サポートおよび臨床腫瘍学 I,II の一部講義を含む2日間のワークショップ（後期）
- ・がん医療人コース必修科目の公開講義（後期）
- ・eLearning 利用の臨床腫瘍学 I,II,III の一部の講義（通年）

2 年次

- ・研究サポートおよび臨床腫瘍学 II,III の一部講義を含む2日間のワークショップ（前期）
- ・2年次の後期より、臨床腫瘍学 I,II,III の単位認定のためのコンピューター試験あり、合格するまで、何度でも受験可能（通年）
- ・他大学との連携授業（前期を予定）

3 年次

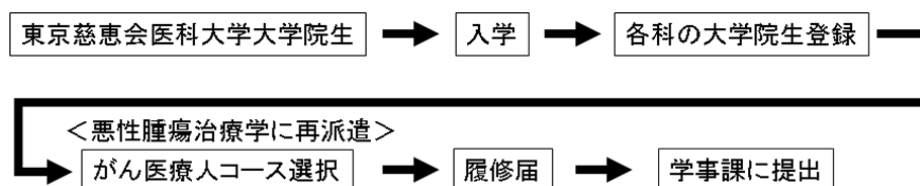
- ・eLearning 利用の臨床腫瘍学 I,II,III の一部の講義（通年）
- ・がん関連診療科での研修ローテーション
- ・選択科目別に研修プログラムを個別にコーディネートして実施する。がん専門施設での研修も可能である。
- ・2日での研究サポートおよび論文作成のためのワークショップ（前期）
- ・場合により研修プログラムの進行状況の確認および論文のための研究の進捗についてのミーティングも随時に行う。

4 年次

- ・がんに関連する研究の中間報告会を施行（前期）
- ・研究内容審査を行い、その後英文論文の提出
- ・学位審査

7. がん医療人コース申込方法、問合せ先について

がん医療人コース申込の流れは、次のようになります。



＊東京慈恵会医科大学大学院の入学に関しては、大学院ガイドをご覧ください。

がん医療人コース申込みおよび問合せについては、本コースのコーディネータにご連絡ください。

コーディネータ：東京慈恵会医科大学 准教授 柵山 年和
大学院研究科 悪性腫瘍治療学 腫瘍・血液内科
TEL：03-3433-1111
e-mail：sakuyama@jikei.ac.jp